

プログラム番号	06063
---------	-------

平成18年度「国費外国人留学生(研究留学生)の優先配置を行う特別プログラム」

【1. 大学の概要】

①大学名 研究科名	筑波大学 生命環境科学研究科		
②学長名	岩崎 洋一		
③所在地	〒305-8571 つくば市天王台1丁目1-1		
④担当者 連絡先	所属部局・職名	筑波大学大学院生命環境科学研究科・教授	
	担当者氏名	東 照雄	e-mailアドレス zenki@sakura.cc. tsukuba.ac.jp
	電話・FAX番号	電話029-853-4948, 4621 FAX 029-853-4605	
⑤ホームページ URL	http://www.life.tsukuba.ac.jp		
⑥大学院在学留学生数	927人(うち、国費留学生 246人)		

【2. プログラムの概略】

①プログラムの名称	国際連携による持続的農業開発エキスパート養成プログラム
②プログラムの形態	博士前期課程+博士後期課程(5年間)
③実施研究科・専攻	生命環境科学研究科 生物資源科学専攻(博士前期課程)
	(所在地) 〒305-8571 つくば市天王台1-1-1
④連携大学・研究科・専攻名	筑波大学・生命環境科学研究科・国際地縁技術開発科学専攻・生物圏資源科学専攻・生物機能科学専攻(博士後期課程)
⑤受入れ学生数	15人(うち研究留学生優先配置人数:4人) (うち日本人学生数:0人)
⑥担当教員数	合計73人(うち、専任:58人、兼任:10人、非常勤:5人)
⑦研究科長(代表者)名	所属部局・職名 生命環境科学研究科・研究科長
	研究科長名 井上 勲

【3. プログラムの内容】

【開設の趣旨】

本プログラムの関連専攻では、これまでに確立されたアジア・太平洋地域の高等教育の専門家や関係国際機関とのネットワーク、海外協定校との学部授業の一環としての海外農業研修とワークショップ等を通して、農学教育におけるカリキュラムの国際化に取り組んできた。本プログラムは、平成18年度8月からJICAとの連携により開設されたアジア・アフリカの農村開発従事者のリカレント教育を行う「持続的農村開発コース」とも有機的に連動させながら、特にESD(Education for Sustainable Development)の実質化として、持続可能な開発に必要な国際連携農業エキスパートの養成を行うものであり、JICA、国連大学、国際研究機関との実質的な国際教育連携により、農学分野における世界的大学院教育拠点形成を促進し、大学院教育の国際化へ貢献することを趣旨とする。

【内容および特色】

本プログラムの最大の特色は、多くの連携実績を持つ海外協定校および国際機関の専門家との連携による厳選されたエキスパート養成カリキュラムの導入および修了後の国際連携機関等へのキャリア支援にある。このために、博士前期課程では、過去27年間に及ぶ筑波アジア農業教育セミナー(TASAE: UNESCO事業)、平成18年度開設の「持続的農村開発コース」と連動させながら、ESD基幹科目の徹底したコースワークと研究指導を行う。さらに、連携する博士後期課程では、複合的履修制度(メジャー・マイナー)による出身国・地域におけるオンサイト研究を行う。これらの新プログラムにより、専門性と学際性の両面を兼ね備え、俯瞰的な立場から対応できる総合化能力を有し、出身国の研究機関・関連分野において持続的農業開発に従事する国際連携農業エキスパートを養成する。

【教育・指導体制(論文指導などサポート体制)】

博士前期課程では、海外協定校・JICA・国連大学との有機的連携の下に、ESD基幹科目として、コミュニティー開発手法論(e-Learning:カセサート大学)、生活改善アプローチ論(JICA専門家)、農村起業のための能力開発論(JICA専門家)、グループ活動支援ファシリテーション演習などの新規5科目を開設する(合計8科目14単位)。加えて、ファームングシステム論、農村開発政策・開発論、生物多様性の保全と持続的利用などの主要科目(合計9科目16単位)について、e-Learningコンテンツによる教育を行う。その他、現行の留学生のための生物資源科学基礎論と生物資源のための英文論文の書き方(合計2科目2単位)、修士論文に関わる演習と特別研究(2年間で合計18単位必修)を履修する。これらの科目群は、全て英語で行われ、合計30単位を取得し修士論文の審査に合格した留学生に修士の学位を授与する。なお、修士論文作成指導は、豊富な海外研究・調査実績を持つ生物資源科学専攻の教員が、留学生の問題意識に適合した研究分野を中心として行う。

博士後期課程では、平成18年度に前期課程に設置された「持続的農村開発コース」の科目群をマイナー科目として修得させ、生物生産における総合化能力を啓発し、持続的農業開発に資する国際性と学際性とを合わせ持つエキスパート養成する。とくに、協定校の特色を活用して、限界地農業技術、山間地農業における地縁技術開発・普及、熱帯産品を利用したバイテク技術、天然資源の保全と管理、集積土壌における農業技術開発、貧困対策・ジェンダー、森林資源の持続的利用技術等について、出身国の農業開発上の諸課題を博士論文の研究内容とする指導を行う。

【使用言語・募集方法・募集対象国・学内選考方法等】

使用言語は、英語である。募集方法は、一般的なインターネット上での募集要項などを掲載するが、従来から交流実績を持つ海外協定校を中心として、関係組織で推薦される学生を募集する。従って、募集対象国もアジア諸国(タイ・フィリピン・インドネシア・中国)を中心とするが、その他、連携国際機関からの推薦などを含めた国々とし、一部アフリカ諸国も視野に入れる。

その選考方法・手順を以下に示す。

- 1) 11月から翌年1月末：募集要項の公表、応募書類の配布(インターネットと各関係国際組織への送付)及び募集
- 2) 翌年 1月末：申請締め切り

- 3) 2月から6月末：応募書類による書類審査で募集定員の2倍ほどに絞り、その後、テレビ会議による面接や選考委員会委員とのやり取りを通して、その修学能力と意欲に基づいて選考する(2段階選抜)。
- 4) 6月末：筑波大学より応募者へ選考結果の通知
- 5) 7月～：合格者の渡航手続開始(各国の協定校などと協力して進める)
- 6) 11月：研究生として来日
- 7) 12月1日：生命環境科学研究科生物資源科学専攻入学、履修開始
- 8) 11月30日：課程修了、修士の学位授与
- 9) 12月1日：後期課程入学

【終了後に想定される進路、修了者に期待できる効果およびフォローアップ体制】

本プログラムの修了者は、農村開発に関わるESD教育の実質化を目指した教育プログラム体制の下に教育されているために、本国の生産現場でその修得した能力を発揮できることが最も望ましい。前期課程と後期課程では就職先が異なる場合が予想されるが、修了者には本プログラムに関係した国際機関などで活躍する就職をサポートして行くための相互交流を現状以上に推進する。また、その他の社会的効果としては、本プログラムで履修させるコンテンツが、世界の開発途上国における持続的な農村開発のための教材として普及することが期待され、上記の人材育成に加え、協定校の大学院教員の教育効果向上等の波及効果が見込まれる。

【本プログラムの点検・評価体制】

生命環境科学研究科(各前期専攻、後期専攻)における内部評価は、①博士前期課程のメジャー履修者と博士後期課程のマイナー履修者の確保、②カリキュラムの実施状況とFD、③e-Learningコンテンツを重点評価課題として設定し、年度ごとに自己点検を行い、次年度の改善目標に資する。加えて、協定校間に既に設置されているコンソーシアムを主体としたワークショップを毎年度末に国内外に開催し、カリキュラムの実行状況を検討、次年度以降の改善に活かす資料を蓄積する。一方、e-Learning開発については、JICA開発のコンテンツの整備も含め、コンテンツ開発委員会を設置し、下部組織として開発に必要な作業小委員会を設ける。年度ごとに合同協議会を開催し、コンテンツ開発の進捗について自己点検を行い、開発委員会に報告する。開発委員会は報告に応じて開発の推進のための方策を新たに検討する。以上の内部評価については、農林技術センター発行の「Journal of Developments in Sustainable Agriculture」(平成17年度より発刊のJ-STAGEを利用したオンラインジャーナル)に公表し、国内外の大学院教育の国際化に資する資料として広く情報発信する。また、外部評価においては、欧米の先進的大学教員2名、UNESCO専門家1名、および日本国内の他大学教員2名から構成される外部評価委員会による評価を実施し、取組の継続性の可否判断を求める。